

先輩はソールズベリー大学でこんな授業を受けています！

Salisbury University（アメリカ・メリーランド州） | 2025 年秋派遣生の履修科目紹介

「留学中、実際にどんな授業を受けるの？」——参加を検討中の皆さんから一番多く寄せられる質問です。このページでは、2025 年秋にソールズベリー大学へ派遣された 5 名の先輩の最終留学レポートから、履修した全科目を授業内容・先輩のリアルな感想とともにご紹介します。

コミュニケーション学、クリエイティブ・ライティング、紛争解決学、メディア論、健康科学、地理学、アメリカ手話、写真、音楽、美術、レトリック、環境学、第二言語習得論——専攻や興味に合わせて、幅広い分野から自由に科目を選べるのがソールズベリー大学の魅力です。

◆ 先輩レポート 1 文学部で英米文学を学ぶ先輩の履修科目

在籍：青山学院大学 文学部 英米文学科（3 年） | コミュニケーション、文学、地理・経済と幅広く履修

COMM10 Introduction to Human Communication （4 単位）	
履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	36 人（大多数がアメリカ人、日本人 2 人）
評価方法	スピーチ・プレゼンテーション 4 回、ノート提出、授業出席
どんな授業？	コミュニケーションの基礎から学び、歴史やコミュニケーションの種類、パブリックスピーキングの理解を深め、プレゼンテーションで実行し振り返りをして次に活かします。グループ活動も多く、様々な人と意見を交換します。
先輩の声	まだネイティブとの会話に不安を持っていて気おくれしてしまうこともあったが、積極的に話しかけるよう努めたことで、いろいろな人と話が出来た。プレゼンテーションは毎回興味深く熟考させられるものが多く、コミュニケーションで大切なことを意識しながら取り組めた。クラスメイトも発言が多く、雰囲気の良いクラスだった。また、教授が私たち留学生のことをとても気にかけてくれて、毎授業後話しかけて様子を聞いてくれた。

ENGL351 Creative Writing (4 単位)

履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	15 人
評価方法	ポートフォリオ 45%、ファイナル試験 10%、授業参加・課題 30%、プレゼンテーション 15%
どんな授業？	フィクション、ノンフィクション、詩の文体や構成などの講義を受け、様々なスタイルの作家の分析やライティング課題に取り組みます。そしてフィクション、ノンフィクション、詩それぞれの作品を作成し、意見を交換しながらより良い作品を作り上げます。
先輩の声	もともと創作活動に興味があったため、書き方について基礎からしっかり学び、様々な作家の作品に触れ解釈をすることで多くのスタイルを学べた。実際に自分の作品を書くときは今までより全体の構成など細かい部分を調整できるようになった。また、他の人の作品を見る機会が多く、どれも面白くてとても楽しめた。

GEOG101 World Geography: Europe and Asia (4 単位)

履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	45 人ほど
評価方法	試験・プロジェクト課題など 90%、授業参加 10%
どんな授業？	世界の気候から始まり、ヨーロッパ、旧ソビエト連邦関連の国、アジアの国々について、基礎知識から文化、経済、歴史までを学びます。
先輩の声	日本で習う内容とは観点が違うことや、様々な資料を使った授業で世界の国々についてさらに深く知れた。教授は生徒とのコミュニケーションも大事にしており、授業中は発言や質問が絶えなかった。試験は範囲が少し広いが、しっかり勉強することで備えることができた。

GEOG203 Globalization & the World Economy (4 単位)

履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	25 人ほど
評価方法	試験・プロジェクト課題 90%、授業参加 10%
どんな授業？	世界の経済の歴史から始まり、工業、サービス業、交通について世界規模の視点で学びます。グローバリゼーションが経済に与える影響についても扱います。
先輩の声	アメリカの大学で学びたいと考えていた授業の一つだったので取ったが、初めて取る分野かつ英語なので特に用語が難しく理解に時間がかかった。試験がなかなかうまくいかなかったが、教授に相談して教科書を貸してもらったりと配慮してもらい、授業について行くことが出来た。内容はとても興味深く、経済大国アメリカの視点から世界の経済を学べた。

◆ 先輩レポート 2 教育学部で多文化共生を学ぶ先輩の履修科目

在籍：東京学芸大学 教育学部 多文化共生教育コース（3 年） | 紛争解決、メディア、健康科学と多彩に履修

CADR200 Foundations of Conflict and Conflict Resolution (4 単位)

履修した先輩	東京学芸大学 教育学部 多文化共生教育コースの先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	約 15 人
評価方法	個人・グループ課題、エッセイ、中間試験（ライティング形式）、グループリサーチペーパー・プレゼンテーション、口頭ファイナル試験、出席・授業参加など
どんな授業？	紛争がどのように起こるのか、どんな紛争があるのか、どのように紛争を解決できるのか、ということについて学びます。
先輩の声	概念を学ぶことが多く難しかったけれど授業内容は興味深く、教授もとても親切にしてくださって学びの深い授業でした。授業内ではたまにアクティビティがあり楽しかったです。

COMM102 Intro to Mass Media (4 単位)

履修した先輩	東京学芸大学 教育学部 多文化共生教育コースの先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	約 30 人
評価方法	オンラインテスト 4 回、不定期の課題、ファイナルペーパー（成績の約 2 割）
どんな授業？	メディアの歴史や仕組み、現代社会への影響など、幅広いメディアについて学びます。ファイナルペーパーでは、映画やテレビ番組など自分で選んだメディア作品を、授業で学んだ知識を生かして分析します。
先輩の声	毎回の授業がとても興味深い内容で楽しかったです。Final Paper の word 数が最低 2000 語で、今までそんなに長い英語のレポートを書いたことがないため苦労しました。（分析対象には、留学中にハマりした Netflix の Stranger Things を選びました！）

HLSC106 Lifestyle Behaviors for Personal Health and Wellness (4 単位)

履修した先輩	東京学芸大学 教育学部 多文化共生教育コースの先輩
授業形式	週 2 回レクチャー + 週 1 回ジムでのワークショップ
クラス規模	約 100 人
評価方法	週次ワークショップ参加、フィットネスプラン、栄養記録、ストレスマネジメントプラン、ボランティア、中間・期末試験など（1000 点満点）
どんな授業？	心と体の健康について、どうしたら健康に過ごせるか、気を付けなければならないことなどを幅広く学びます。座学だけでなく、実際にジムで体を動かすワークショップやボランティア活動も授業の一部です。
先輩の声	週 1 のワークショップで体を動かすのが楽しかったです。レクチャーのときはまわりの人とちょっとしたグループディスカッションをする機会が多かったです。この授業を通して仲良くなり hang out するような友達ができたのがとてもうれしかったです。ボランティアをする課題があったことで、いろいろなことに挑戦するきっかけになったのがとてもよかったです。

◆ 先輩レポート 3 手話・写真・言語学まで幅広く挑戦した先輩の履修科目

在籍：学習院大学 文学部 英語英米文化学科（3 年） | アメリカ手話、写真、大学院レベルの言語学まで多彩に履修

ASL101 Elementary American Sign Language I （4 単位）	
履修した先輩	学習院大学 文学部 英語英米文化学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	10～15 人ほど（全員アメリカ人）
評価方法	クイズ・ユニットテスト、ジャーナル課題、ビデオ課題、出席など
どんな授業？	基本的なアメリカ手話を学びます。色、アルファベット、数字、動詞などの表現に加え、ろう文化への理解（Deaf Awareness）も扱います。授業内では声を使ってはいけないというルールがあるユニークな授業です。
先輩の声	授業内では声を使ってはいけないというルールがあり、最初は混乱したが、だんだんと慣れていき、お気に入りのクラスになった。日本語の手話を勉強したことがあり、苦戦することもあったが授業レベルはそこまで難しくなく、とても興味深く楽しい授業だった。

ART129 Introduction to Digital Photography （4 単位）	
履修した先輩	学習院大学 文学部 英語英米文化学科の先輩
授業形式	レクチャー・実習
クラス規模	15 人ほど（全員アメリカ人）
評価方法	撮影課題・プロジェクトの提出と講評（複数回の提出・修正あり）、出席など
どんな授業？	写真を通してどうメッセージを伝えるか、またメッセージをどう写真に転換するかを学びます。Lightroom の使い方などの実践的スキルも身につきます。授業時間に外に出て撮影するクラス内課題もあります。
先輩の声	写真を撮ってそれを評価してもらうという流れが繰り返された。クラス内課題として、授業時間に外に出て写真を撮ることもあった。カメラを持っていなくても履修できる。

COMM101 Introduction to Human Communication (4 単位)

履修した先輩	学習院大学 文学部 英語英米文化学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	30 人ほど
評価方法	毎週の手書きノート提出、スピーチ 3 回（自己紹介・情報提供・説得）、グループプロジェクト、授業参加・出席など
どんな授業？	効果的なコミュニケーションの方法や、学問としてのコミュニケーションの歴史などを学びます。自己紹介スピーチから説得スピーチまで、段階的にプレゼンテーションに取り組みます。
先輩の声	先生の指示が曖昧で理解できなかった時が多々あった。ただ、留学生というのもあり、個人的に時間を割いて説明してくれたり、オフィスアワーに呼んでもらうこともあったので問題なくついていくことができた。チリ人の先生ということもあってか、異文化や外国に関するトピックに触れることもあり、日本人としてのアイデンティティを持つ自分としては興味深い時間だった。

ENG539 Second Language Acquisition (4 単位)

履修した先輩	学習院大学 文学部 英語英米文化学科の先輩
授業形式	レクチャー・ディスカッション（大学院レベルの授業）
クラス規模	13 人ほど（大学院生中心。英語が第一言語でない学生も複数）
評価方法	クイズ 5 回、学習ジャーナル、分析ペーパー、中間プロジェクト、プレゼンテーション録画、ファイナルペーパー、出席など
どんな授業？	第二言語習得について、研究の仕方や、年齢・環境が言語習得にどう影響するかなどを学びます。大学院生に交じって受講する本格的な授業です。
先輩の声	先生がとても優しく、また第二言語を学んでいる身としては個人的な経験を話せる場面も多かったため、とても楽しい授業だった。ただ授業レベルは高く、復習が必須の授業だった。

◆ 先輩レポート 4 音楽・文学・メディアと文化系科目を極めた先輩の履修科目

在籍：成蹊大学 文学部 英語英米文学科（3年） | 音楽、地理、文学、メディアの4科目を履修

MUSC114 Connecting Through Music （4単位）	
履修した先輩	成蹊大学 文学部 英語英米文学科の先輩
授業形式	セミナー
クラス規模	14人
評価方法	プレゼンテーション2回、課題、レポート
どんな授業？	音楽がどのような力をもっているのか、音楽が人や社会に与える影響について学びます。
先輩の声	教授の人柄がとてもよく、留学生である私を気にかけてくれたため、クラスを楽しく受けることができた。授業内で使われる単語や内容もそれほど難しくなかったため理解することができた。

GEOG101 World Geography: Europe and Asia （4単位）	
履修した先輩	成蹊大学 文学部 英語英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	47人
評価方法	ユニットごとのテスト、課題、クイズ
どんな授業？	ヨーロッパとアジアの現代の政治や情勢を学びます。世界各地で起こっている問題や紛争、情勢をタイムリーに扱います。
先輩の声	現在の様々な地域で起こっている問題や紛争の詳細、情勢などをタイムリーに学ぶことができた。今まで日本で学んだこともあったが、また違った見方などもできて面白かった。

ENGL351 Creative Writing (4 単位)

履修した先輩	成蹊大学 文学部 英語英米文学科の先輩
授業形式	セミナー
クラス規模	14 人
評価方法	ポートフォリオ提出 3 回、プレゼンテーション、ディスカッション、テスト
どんな授業？	ノンフィクション、フィクション、詩の様々な技法を学び、実際に英語で作品を書き上げます。提出前には毎回ピアレビューを行い、クラスメイトの意見をもらって作品を改善していきます。
先輩の声	英語で物語を真剣に書いたことがなかったため最初はどうすればいいのかわからなかったが、授業でしっかりとどう書けばよいのかを学ぶことができたため、とても楽しく物語を書くことができた。ピアレビューで違った視点からの意見をもらって物語を改善していくことも楽しかった。教授が毎回ポートフォリオ提出後に詳細なフィードバックをくださったため、自分のライティングの改善に大いに役立った。

COMM102 Introduction to Mass Media (4 単位)

履修した先輩	成蹊大学 文学部 英語英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	34 人
評価方法	課題、テスト、最終レポート
どんな授業？	マスメディアが映画やゲーム、雑誌、新聞などにどのように関わっているのか、その歴史、私たちがマスメディアとどうかわっていけば良いかななどを学びます。
先輩の声	自分の興味のあった映画やドラマだけでなく、ゲーム、雑誌などについても学ぶことができてとても楽しかった。ほとんどの生徒が毎回たくさん発言していて、毎回の授業がレクチャーというよりもディスカッションになっていたのが印象的で刺激を受けた。最終レポートでは教授と 1 対 1 で方向性についてディスカッションをし、どのように書けばよいかを教えてもらえたため、安心して取り組むことができた。

◆ 先輩レポート 5 アートからプレゼン、環境問題まで挑戦した先輩の履修科目

在籍：青山学院大学 文学部 英米文学科（3年） | 美術、メディア、レトリック、環境学の4科目を履修

ART130 Drawing I （4単位）	
履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー・実技
クラス規模	10人程度（現地生）
評価方法	制作した作品による評価
どんな授業？	ドローイング（デッサン・絵画）の基礎を学びます。キャンパス内の屋外に出て描く課題もあります。
先輩の声	初めての芸術の授業だったのですが、教授も優しくて絵を描くのって楽しいなと知ることができました。絵を描くことがこの授業を通して趣味にできてうれしいです。楽しかったのはやはり外に出て描く課題です。キャンパス内をうろうろしながら、このキャンパスは自然が豊かだなと知れましたし、心が穏やかになる時間でした。

COMM102 Introduction to Mass Media （4単位）	
履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	30人程度（現地生）
評価方法	試験とレポート
どんな授業？	マスメディアについて幅広く学びます。自分に馴染みのある雑誌やテレビ番組を分析する課題もあります。
先輩の声	苦労したのは課題でした。「あなたに馴染みのある雑誌やテレビ番組について分析しなさい」という課題があり、私にとっては馴染みのないものばかりだったので現地生よりも時間はかかったかなと思います。しかし、同時にこちらのカルチャーを知れたのでとても興味深かったです。

COMM218 Rhetoric and Public Presentation (4 単位)

履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	レクチャー
クラス規模	20 人程度（現地生）
評価方法	プレゼンテーション
どんな授業？	どのように周りを説得するプレゼンテーションを行うかを学びます。毎授業、プレゼンテーションに慣れるための「ブートキャンプ」があり、即興プレゼンなどに取り組みます。
先輩の声	即興でプレゼンテーションをしたりと、なかなか大変で時には涙を流して自分のふがいなさを思い知りましたが、本当にやってみたかった授業でしたし、私の今後の人生にとって大きな影響を与えてくれた授業であったと思います。

FYS ENV02 Preserving Global Biodiversity and Justice (4 単位)

履修した先輩	青山学院大学 文学部 英米文学科の先輩
授業形式	ディスカッション
クラス規模	20 人程度（現地生）
評価方法	試験、プレゼンテーション
どんな授業？	人間と野生動物の共存について学びます。毎授業、事前に配布されるマテリアルを基にディスカッションを行います。クラス旅行として川へカヌーをしに行く機会もあります。
先輩の声	苦労したのは課題の多さやクラス内ディスカッションです。事前マテリアルの量がなかなか多く、ディスカッションはとても苦戦していますが、よい教授とお友達のおかげでなんとかやっています。クラス旅行で川にカヌーをしに行くのが初めての経験でとても楽しみです。

先輩が感じた、アメリカの授業のここがすごい！

「日本の授業とは本当に違うと毎回思う。生徒の積極性がアメリカの大学は高く、生徒間での意見の交換も活発。教授からの一方的な講義ではなく、生徒と一緒に授業を作っているように感じた。留学生を受け入れてくれる生徒が想像以上にいて、質問をしてくれたり意見を興味深そうに聞いてくれるのは嬉しかった。」

—— 2025 年秋派遣・青山学院大学の先輩

「学生の発言量が日本に比べて多いと感じました。こちらの大学ではほぼ寝ている人を見かけませんでした。全体的に日本の大学に比べて課題量も多いと感じました。」

—— 2025 年秋派遣・東京学芸大学の先輩

「最初に圧倒されたのは、生徒の積極的な取り組み姿勢でした。質問だけでなく意見や個人的な経験など、その場で思いついたことを口に出す姿は日本の大学の授業とは異なり、魅力的に感じました。教授との距離も近く、いろんな年齢、肌の色、髪の色、ジェンダーの学生がいます。」

—— 2025 年秋派遣・学習院大学の先輩

「学生の発言数が多いと感じた。質問があればすぐに聞く姿は刺激的でとても良いと思った。」

—— 2025 年秋派遣・成蹊大学の先輩

「日本の授業と違うのはやはり生徒の姿勢だと思います。積極的な発言や教授との議論など、見ていてこちらもやる気になるものでした。」

—— 2025 年秋派遣・青山学院大学の先輩

※ 本ページの内容は 2025 年秋派遣生の最終留学レポート（2026 年 5 月提出）に基づいています。開講科目・評価方法は年度により変わる場合があります。